

3 男女が自立し安心して暮らせるまちづくり

対象事業	現状・課題	意見	理想像
事業番号 26 経済的に困難を抱える家庭への支援 事業番号 35 女性が自らの身体について自己決定を行い、健康を享受する権利の啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・望まない妊娠をしてしまうと、経済的に困難を抱えてしまうことが多い。 ・各中学校においては、いのち・性についての講演会を開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・性教育を単独で行うのではなく、キャリア教育と絡めて行うことで、若くして望まない妊娠をして経済的に困難を抱えてしまう人を減らせるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体で子どもを育てる意識を持ち、みんなで支え合いながら子育てを行う。また、学校においては、キャリア教育と性教育を関連させて取り組むことで、望まない妊娠をしてしまう子どもを減らす。
事業番号 29 シルバー人材センター事業の支援・拡充／介護予防の担い手の育成 事業番号 41 介護予防教室の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センター登録者数は増えており、高齢者の活躍の場となっている。 ・様々な介護予防のための事業を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防のための施策は多く行っているが、実際に介護が必要になった場合、女性に負担が偏っている現状がある。介護予防の取組だけでなく、実際に両親の介護などが必要になった場合に、男性も介護に参加するような取組を推進できないものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が様々な場に顔を出し、健康に年を重ねていく。 ・女性だけに負担が偏ることなく、みんなで協力して介護を行う。
事業番号 36 性的少数者に関する理解促進のための啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度から年に一度、LGBT についてのセミナーを開催し、小中学校の教職員等が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に、当事者の話を聞くことで理解も深まるので良い取り組みだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性を認め合う社会。

5 配偶者等に対する暴力の根絶

対象事業	現状・課題	意見	理想像
<p>事業番号 65 相談窓口の周知／庁内相談担当者間の連携強化／被害者の安全と安心の確保／相談のワンストップ化の推進／被害者の特性に応じた相談体制の確立</p>	<p>・直接DVの被害を訴えて相談に来られる人は少ないと思われる。また、相談をしたとしても、結局は経済的な理由で家を出ることためらうケースもある。</p>	<p>・DVなどの被害に遭ったとしても、家庭内の問題を市役所に来て相談するのはハードルが高いと思っている人も多いのではないかと。 ・DV相談窓口のカードを男性トイレにも置いてはどうか。 ①DVの認識を広める（自らの言動の加害性に気付いてもらう）ため。 ②男性被害者のため。 ③知り合いの被害・加害への対応のため。</p>	<p>・DV被害に遭った人が、相談をしやすい体制を作る。また、DV被害者のための生活支援や就労支援を充実させる。</p>
<p>事業番号 69 庁内相談担当者間の連携強化／被害者の安全と安心の確保／相談のワンストップ化の推進</p>	<p>・相談件数と被害の実数は一致しないため、被害の実態を掴むことは難しい。（「他人に知られたくない」という思いで外に出てこない被害もあると思われる。）</p>	<p>・相談・発見に至らない隠れた被害についても、「もしかしたら」という視点で早期発見する努力が必要である。</p>	<p>・DV相談窓口だけでなく、各種窓口においても、DV被害が疑われる人が来られた場合は、気付いて支援につなげる。</p>
<p>事業番号 63 DVの未然防止のためのセミナーや講演会の開催</p>	<p>・各中学校でいのち・性についての講演会を開催し、人権尊重の意識や性についての正しい理解の促進を図っている。</p>	<p>・被害者にも加害者にもならないために若い世代からの教育が大事である。特に、自分がされて嫌なことは、嫌だと言えるようになることを重要視する教育が必要ではないか。（CAPプログラムでは、そのような内容の講演を行っている。）</p>	<p>・被害者の支援だけでなく、加害者を生み出さないような仕組みができる。</p>